研究会報告

第三回チッソ労働運動史研究会記録

日　時　2006年12月15日

場　所　熊本学園大学水俣学現地研究センター（水俣市）

参加者　元チッソ労働者、新日窒労組元組合員

小形喜代太（1928年生まれ、1943年入社）
大戸迫輝夫（1929年生まれ、1946年入社）
松田　哲成（1929年生まれ、1948年入社）
徳永　常喜（1933年生まれ、1948年入社）
山下　善寛（1940年生まれ、1956年入社）
高橋　幸一（1941年生まれ、1957年入社）
山平　勝利（1944年生まれ、新日窒工学校を経て1962年入社）

研究者
花田　昌宣（熊本学園大学水俣学研究センター）
福原　宏幸（大阪市立大学）
磯谷　明徳（九州大学）
田尻　雅美（熊本学園大学水俣学研究センター）

記録
大澤　愛子（熊本学園大学水俣学研究センター）

ここに収録するのはチッソ労働運動史研究会の第三回の記録である。この研究会は、新日窒労組をはじめとする新日窒およびチッソにおける労働運動の歴史を記録し、その意味を考えていこうと呼びかけられたもので、退職労働者たちと研究者たちが議論する場として設けられた。経緯と課題に関しては、『水俣学研究』第２号を見られたい。

第三回目は2006年12月15日午後に開催され、二時間余り話を伺うこととなった。話は多岐にわたるが、1953（昭和28）年の身分制撤廃闘争を中心に議論が展開した。このテーマは、昭和20年代半ば頃まで、多くの企業で「工職身分撤廃闘争」として労働争議の課題になっていたものである。新日窒の場合は少し遅い。新日窒労組はこの争議を通して、労使関係のルールを作るとともに組合としての基本を組合員が身につけていった。

この研究会は「フォーカスグループインタビュー」という手法に基づき、同一のテーマで関係者に集まっていただき、自由に語っていただきそれを記録するという形をとっている。こうすることによって、一人一人インタビューしていたのではでてこない記憶が喚起され、当事者にとっても、研究者にとっても新たな発見が得られる。

元組合員たちの発言は、地元の言葉で語られており、可能な限りそのまま収録した。ただ

し、方言が多く残っているが、その場の雰囲気も含めて理解していただくためあえてそのまま記載させていただいた。読みにくさは趣旨ご理解の上ご海容ねがいたい。登場する人名に関しては、正確を期すよう努めたが、字のわからないところはカタカナのままにしておいた。

録音記録のテープ起こし及び原稿の整理は深草雪英（水俣学研究センター）が担当し、花田昌宣が見直した。

なお、この時期の新日窒労組に関しては下記が参考となる。

『さいれん』（新日本窒素労組機関紙）復刻版、第一回配本（1951年２月～1962年７月）、柏書房、2010年12月

花田昌宣「新日本窒素における労働組合運動の生成と工職身分制撤廃要求」『大原社会問題研究所雑誌』630号、2011年４月

また、会社に関しては下記が参考となる。

矢作正「チッソ史1945-65研究開発」『浦和論叢』24号2000年６月

チッソ株式会社『風雪の百年：チッソ株式会社史』2011年９月

熊本学園大学水俣学現地研究センター（水俣市内）には組合資料が保存整理されて公開されている。水俣学研究センターのWEBページ上に資料目録を公開しており、また当時の写真や動画も掲載しているので参考にされたい。